2026年11月10日

組合員・利用者本位の業務運営に関する取組状況および ＫＰＩ実績値の公表について

- 当組合は、「組合員・利用者満足度の向上」を経営理念として掲げ、「組合員・利用者本位の業務運営に関する取組方針」を公表するとともに、組合員・利用者の皆さまの安定的な資産形成に貢献するための具体的な取組みを実践しており、今回その取組状況を公表いたします。
- また、上記とあわせ金融庁より各金融機関に対し公表が期待される「お客様本位の良質な金融商品・サービスを提供する金融事業者をお客さまが選ぶうえで比較することのできる統一的な指標」（「比較可能な共通ＫＰＩ」）も同時に公表いたします。

（注）共済事業は、当組合と全国共済農業協同組合連合会（ＪＡ共済連）が、共同で事業運営しております。

土佐くろしお農業協同組合

Ⅰ.取組状況

1　組合員・利用者への最良・最適な商品、共済仕組みサービスの提供

（1）信用の事業活動

【原則２本文および（注）、原則３（注）原則６本文および（注２、３、６、７）補充原則1～5本文および(注)】

- 組合員・利用者にとって最善なサービスとは「最も適した金融商品、サービスを提供されること」と捉え、組合員・利用者一人ひとりのことを深く理解したうえで誠実・公正に対応することにより、より良質なサービスが提供できるように取り組みます。
- JAバンク全体では商品新規導入を行う際は、第三者評価機関からの意見を伺いながら、お客様のニーズに合った商品を取入れ、パフォーマンスが芳しくない場合は取扱いを行わない等、定期的な商品ラインアップの見直しを行っております。それにより以下のように商品数が増減いたします。
- なお、当組合は、金融商品の組成に携わっておりません。組合員・利用者の皆さまの最善の利益の実現につながる取組みとして、金融商品を組成する投資運用会社との情報連携を開始しております。

＜投資信託の取扱い商品ラインナップ（2026年3月末時点）＞

カテゴリ	国内	海外
債券型	1 （前年度末：0）	4 （前年度末：0）
株式型	4 （前年度末：0）	10 （前年度末：0）
REIT型	1 （前年度末：0）	2 （前年度末：0）
バランス型	9 （前年度末：0）	

※　現在、新規でお申込みいただけないファンドも含まれておりますが、公社債投信は含んでおりません。

Ⅰ.取組状況

1　組合員・利用者への最良・最適な商品、共済仕組み・サービスの提供

（２）共済仕組み・サービス

【原則２本文および（注）、原則3(注)、
原則６本文および(注2、3、６、７)、補充原則1～5本文および(注)】

・当組合は、当組合のルールや社会的規範（コンプライアンス）を遵守し、組合員・利用者一人ひとりのことを深く理解したうえで、誠実・公正に対応することにより、最良最適な共済仕組み・サービスを提供しております。

・契約内容の説明・契約に関する事柄は全てライフアドバイザー資格認定を有した職員が対応する体制を整えております。

・当組合は市場リスクを有する共済仕組み（例：外貨建て共済）は提供しておりません。

・令和7年度の総合満足度は97.7%となっております。（JA共済利用者満足度調査）

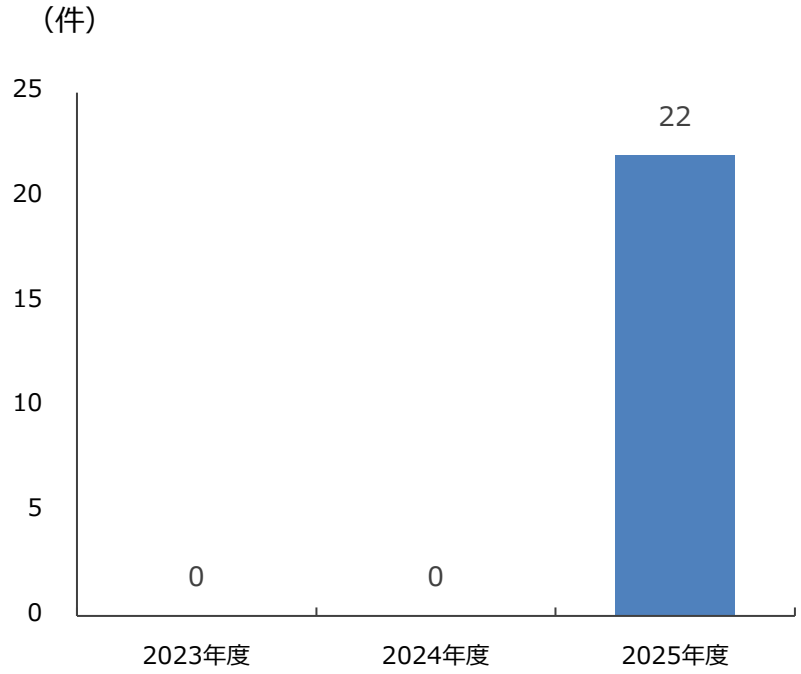
・共済事業については、当組合と全国共済農業協同組合連合会が共同で事業運営を実施しており、組合員・利用者の皆さまの声や共済事業に関する各種情報を相互に連携し、共済仕組み・サービス向上に取り組んでおります

2　組合員・利用者本位の提案と情報提供①
（１）信用の事業活動

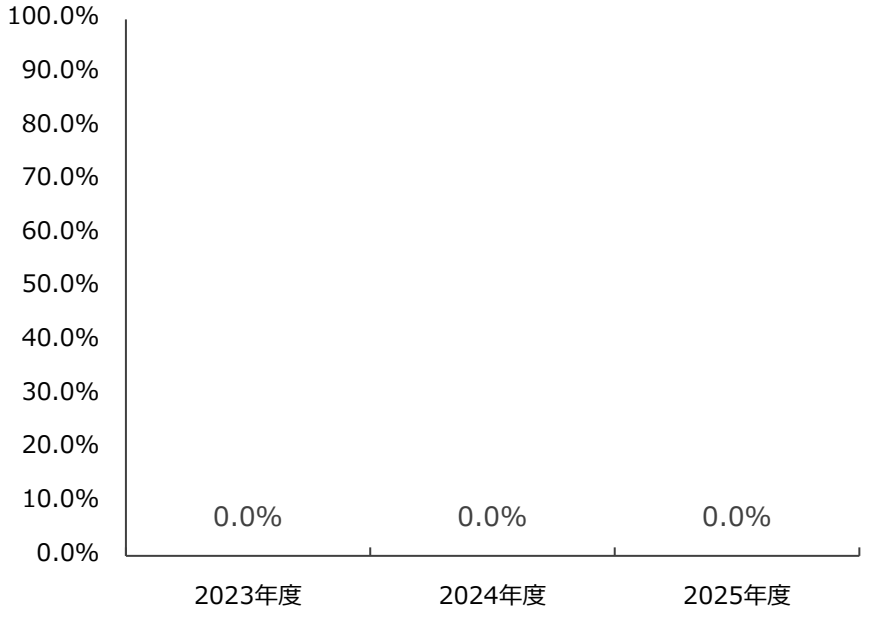
【原則２本文および（注）、原則５本文および(注１～５）、
原則６本文および（注１～７）】

- 組合員・利用者との対話を通じて、金融知識・経験・財産・ニーズや目的を把握し、最適な商品をご提案いたします。
- 継続投資に適した「長期・分散・安定」型の商品を中心にご提案した結果、「投信つみたて」を利用される組合員等が増加し、「毎月分配型ファンド」は取扱いがありませんでした。

＜投信つみたて契約件数の推移＞



＜購入額に占める毎月分配型ファンドの比率＞

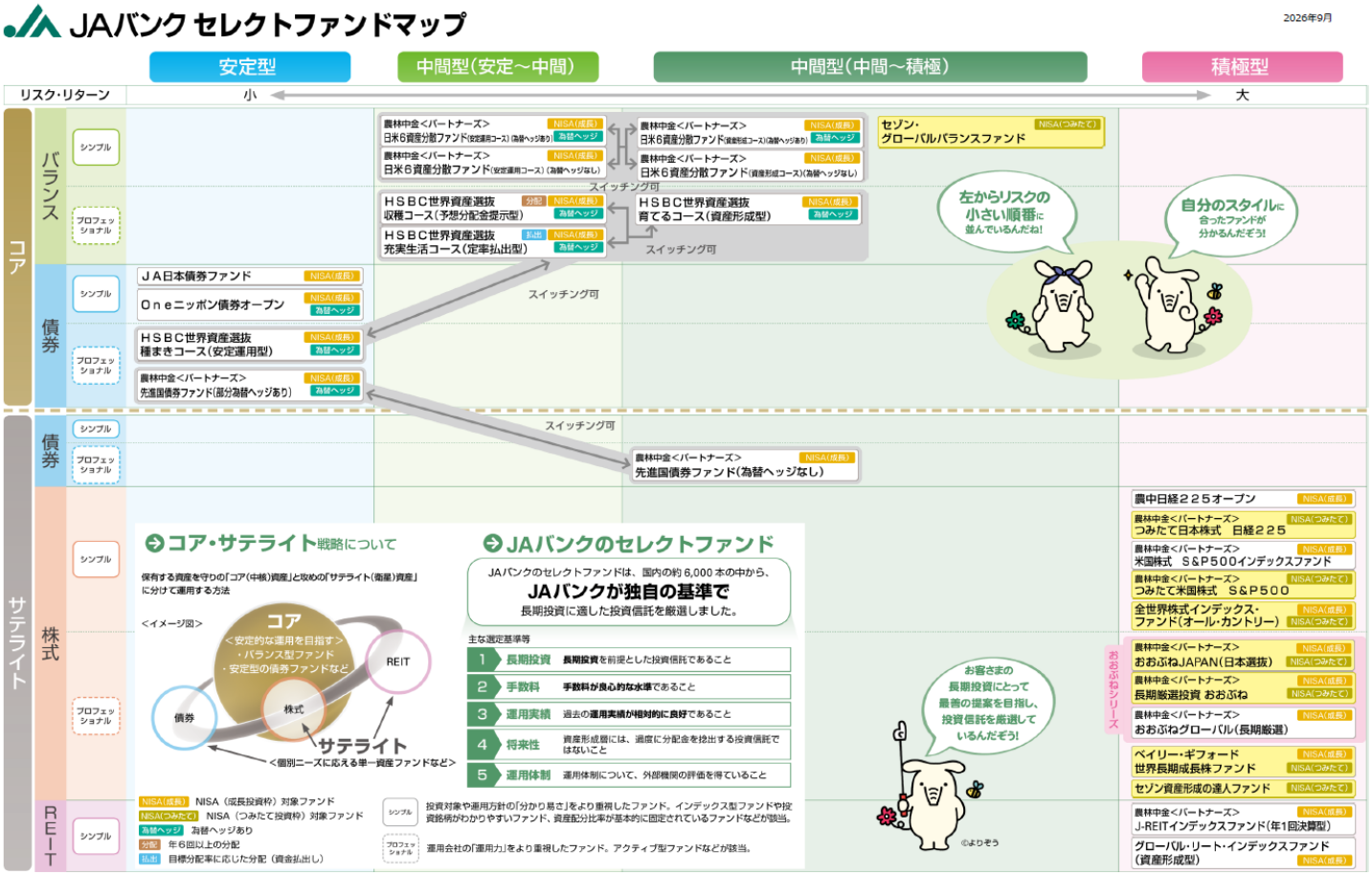


2　組合員利用者本位の提案と情報提供②

【原則4、原則5本文および（注1～5）、原則6本文および（注1～７）】

（１）信用の事業活動

- 投資判断に適した提案を行うために、理解度に応じて商品のリスク性・手数料等の重要な事項については「ＪＡバンクセレクトファンドマップ」等を用いてわかりやすい説明を実施しました。



2　組合員・利用者本位の提案と情報提供③
（２）共済の事業活動

【原則4、原則5本文および（注1～5）、原則6本文および（注1・２・4・５）】

１.共済仕組み・サービスのご提案

・共済仕組み・サービスの提案にあたっては組合員・利用者の皆さま一人ひとりとの対話を通じて組合員・利用者の皆さまのご意向を適切に把握しております。

・共済仕組み・サービスについては、重要事項説明（契約概要・注意喚起）を実施し、特にご確認いただきたい事項や不利益情報を分かりやすくご説明しております

・なお、当組合は金融商品の組成に携わっていないことや市場リスクを有する共済仕組み（例：外貨建て共済）は提供しておりません。

２.情報提供

・当組合は組合員・利用者にとってわかりやすい情報提供を行います。

・情報提供にあたっては各種説明資料等を用いて、誤解を招くことのないようにわかりやすく説明しております。

３.契約締結時の対応

・意向確認書を用いて意向把握・確認を行い、意向確認欄の各事項を再確認後、意向確認書（控）を交付することで、ご提案した共済仕組み・サービスが組合員・利用者の皆さま一人ひとりのご意向に沿ったものであるか確認しております。

４.高齢者対応

・ご高齢（７０歳以上）の組合員・利用者の方については、ご家族も含め十分ご納得、ご満足いただけるよう、提案説明時、契約締結時には、ご親族に同席もしくは電話連絡による確認をお願いする等、よりきめ細やかな対応を行っております。

なお、令和７年度より「共済契約のお手続きに関するご案内」をお渡しすることで、ご契約者さま・被共済者さまだけでなく、ご親族の方にもご安心いただけるよう努めております

５.各種手続きとアフターフォローの実施

・各種手続きの実施にあたっては、組合員・利用者の皆さまに分かりやすくご説明しております。

・将来、ご自身によるお手続きが困難になった場合の備えとして、「指定代理請求人」にご家族を指定いただくことをご案内しております（生命総合共済の場合）。

・支払い請求手続きの簡素化を推し進めるなど、組合員・利用者の皆さまの利便性向上に向けて取り組んでおります。

・ご加入後も、３Ｑ活動（近況・ご加入内容・請求漏れの確認）をもとに「あんしんチェック」を実施するなど組合員・利用者の皆さまに寄り添った取り組みを実施しております。

・JA共済アプリ・webマイページを登録することにより、ご自身で容易に契約内容確認・各種手続き等ができる環境を整えるために、 JA共済アプリ・webマイページの登録推奨に取り組んでおります。

・保障の加入にあたり、共済掛金の他に組合員・利用者の皆さまに手数料等はご負担いただいておりません。

3　利益相反の適切な管理　【原則３本文および（注）】

・当組合の利益を不当に優先することや組合員・利用者の利益が不当に害されることがないように、当組合が別に定める「利益相反管理規定」に基づき、適切に管理しております。

・営業部門から独立した利益相反管理統括部署を設定のうえ、利益相反のおそれのある取引を特定し利益相反を管理しております

・以下の観点で利益相反のおそれのある取引を類型化し、効率的に管理することで、遺漏なく利益相反取引を検知する体制を整えています。

①自己取引類似型：利用者と当組合の利益相反
（利用者と当組合が契約等に基づく関係を有し、利害が対立する状況において、忠実義務が全うされない場合）

②双方代理類似型：利用者相互間の利益相反
（当組合と関係を有する利用者と対立若しくは競合する別の利用者との取引によって、当該利用者の利益を不当に害する場合）

③情報不当利用型：当組合が利用者との関係から得た情報の不当利用
（利用者から得た情報を利用することにより、当組合の利益を図ること、若しくは他の利用者の利益を図ることによって、利用者の利益を不当に害する場合）

4　組合員・利用者本位の業務運営を実現するための人材の育成と態勢の構築

【原則2本文および（注）、原則6（注5）原則７本文および（注）】

・当組合が実践する「組合員・利用者本位の業務運営」が組合員・利用者にとってより良いものとなるために、当方針の内容について役職員に周知するとともに重要となる専門的知識の習得のための教育・研修制度の充実に取り組みます。

・組合員・利用者の皆さまからいただいたご意見等を真摯に受け止め、業務改善に努めます。

＜内部研修・資格制度＞

証券外務員資格再研修	ライフアドバイザー認証要件研修	公的保障研修	共済契約税務研修

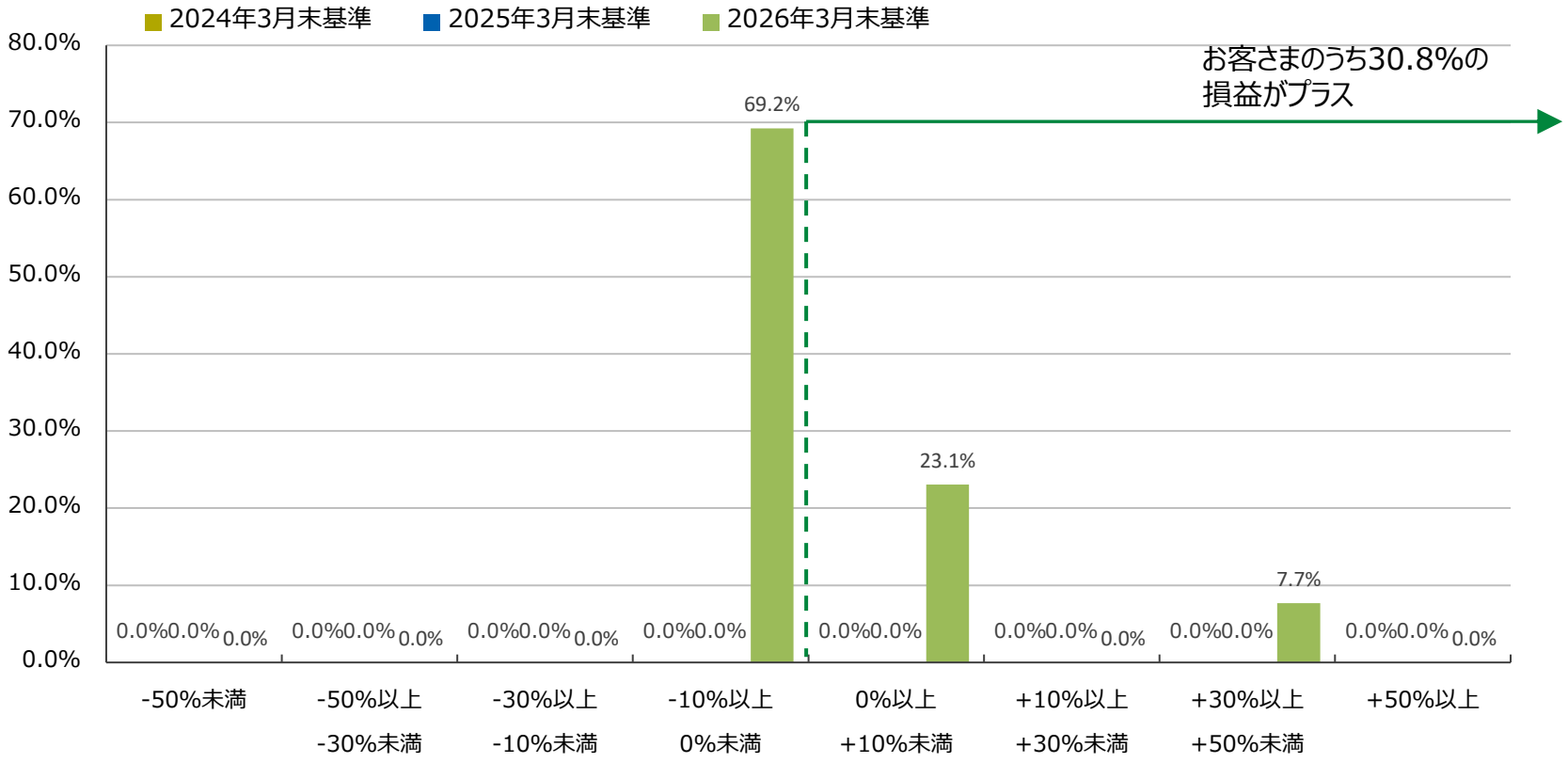
＜取得を推奨する外部資格＞

証券外務員１種	内部管理責任者試験	FP2級技能士

Ⅱ.比較可能な共通ＫＰＩ

1　運用損益別顧客比率（投資信託）

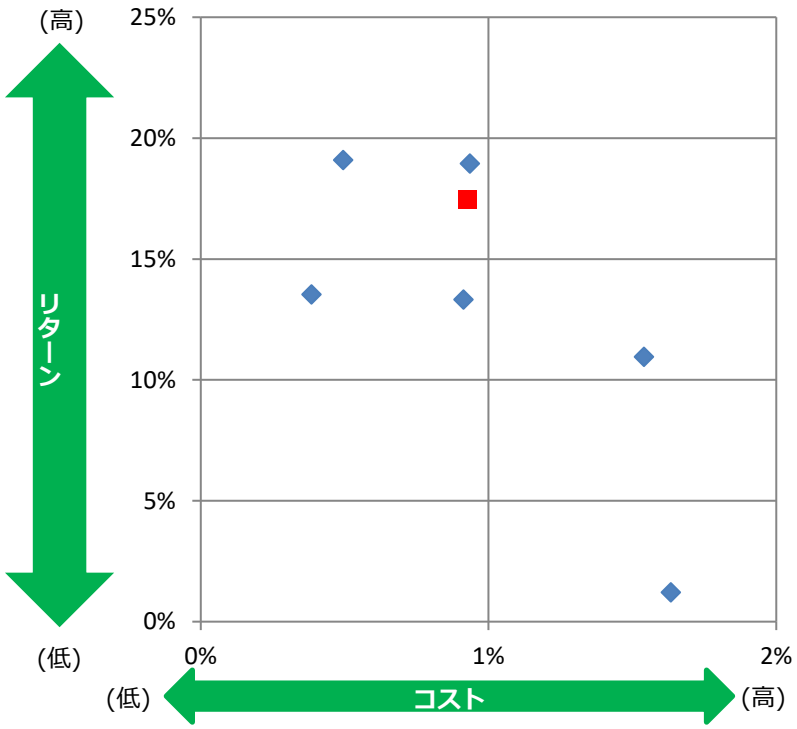
- 2026年3月末は組合員・利用者の皆様へ長期・分散投資やつみたて投資をご提案してきたことにより、全体の30.8%のお客さまの損益がプラスとなりました。
- 2024年3月末および2025年3月末時点の取扱いはありません。



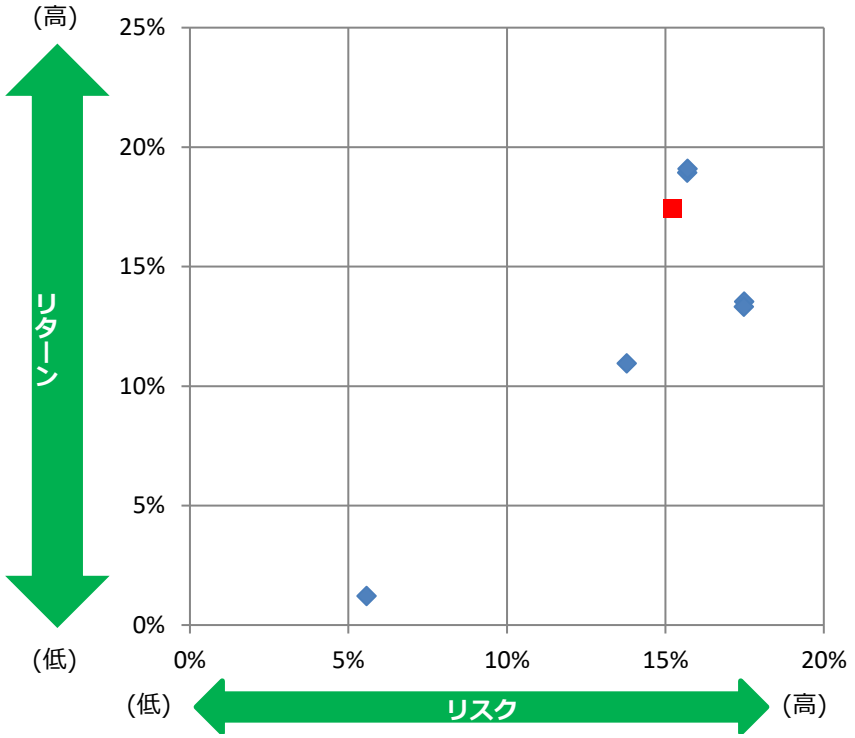
2　投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン（2026年３月末）

- 2026年3月末時点の預り残高上位20銘柄の平均コスト0.93%、平均リスク15.24%に対して、平均リターンは17.43%でした。
- 2024年3月末および2025年3月末時点の取扱いはありません。

＜預り残高上位20銘柄のコスト・リターン＞



＜預り残高上位20銘柄のリスク・リターン＞



※各ファンドのコスト・リスク・リターンは、9ページに掲載しております。
※赤い点は平均値を示しています。

Ⅱ.比較可能な共通ＫＰＩ

3　投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン（2026年３月末）
※2024年3月末および2025年3月末時点の取扱いはありません。

	ファンド名	運用会社	リターン（年率）	リスク（年率）	コスト全体
1	米国株式　S&P500インデックスファンド	農林中金全共連アセットマネジメント（株）	18.94%	15.69%	0.94%
2	つみたて米国株式　Ｓ＆Ｐ５００	農林中金全共連アセットマネジメント（株）	19.09%	15.70%	0.50%
3	つみたて日本株式　日経２２５	農林中金全共連アセットマネジメント（株）	13.54%	17.49%	0.39%
4	HSBC世界資産選抜　収穫ｺｰｽ(予想分配金提示型)	HSBCアセットマネジメント㈱	1.22%	5.57%	1.63%
5	セゾン資産形成の達人ファンド	セゾン投信（株）	10.96%	13.78%	1.54%
6	農中日経２２５オープン	農林中金全共連アセットマネジメント（株）	13.33%	17.47%	0.91%
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
	残高上位20ファンドの残高合計／残高加重平均値		17.43%	15.24%	0.93%

※ 2026年３月末基準時点における共通ＫＰＩの対象となるファンド数は6本となります。
※ 当指標は、設立から5年が経過したファンドを対象として、リターン・リスク・コストを算出して表示しております。